

みずほCustomer Desk Report 2020/01/24号 (As of 2020/01/23)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.72
TKY 9:00AM	109.74	1.1096	121.78	GBP/USD	1.3145
SYD-NY High	109.85	1.1109	121.78	AUD/USD	0.6842
SYD-NY Low	109.26	1.1036	120.64		
NY 5:00 PM	109.49	1.1058	121.08		
NY DOW	29,160.09	▲ 26.18	日本2年債	-0.130	▲ 1.00bp
NASDAQ	9,402.48	18.71	日本10年債	-0.020	▲ 2.00bp
S&P	3,325.54	3.79	米国2年債	1.5128	▲ 1.45bp
日経平均	23795.44	▲ 235.91	米国5年債	1.5428	▲ 3.13bp
TOPIX	1730.50	▲ 13.63	米国10年債	1.7299	▲ 3.83bp
シカゴ日経先物	23,815.00	▲ 35.00	独10年債	-0.3075	▲ 4.50bp
ロンドンFT	7,507.67	▲ 64.25	英10年債	0.5900	▲ 4.35bp
DAX	13,388.42	▲ 127.33	豪10年債	1.1145	0.15bp
ハンセン指数	27,909.12	▲ 431.92	USDJPY 1M Vol	4.85	0.35%
上海総合	2,976.53	▲ 84.23	USDJPY 3M Vol	5.18	0.25%
NY金	1,565.40	8.70	USDJPY 6M Vol	5.50	0.21%
WTI	55.70	▲ 1.04	USDJPY 1M 25RR	-1.23	Yen Call Over
CRB指数	178.53	▲ 1.50	EURJPY 3M Vol	5.69	0.23%
ドルインデックス	97.68	0.15	EURJPY 6M Vol	5.92	0.08%

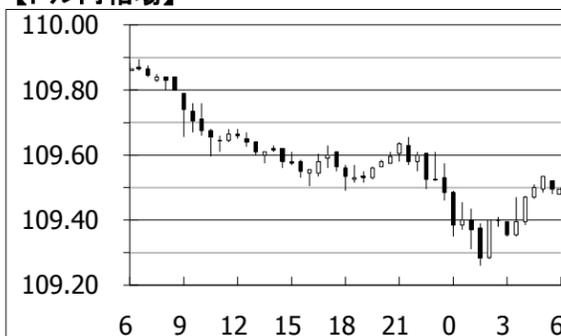
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月23日	08:50	日 貿易収支	12月 -¥152.5b	-¥152.6b
	09:30	豪 雇用者数変化/失業率	12月 28.9k/5.1%	10.0k/5.2%
	14:00	日 景気一致指数・確報	11月 94.7	-
	21:45	欧 ECB理事会 ECB主要政策金利	1月 0.0%	0.0%
	22:30	米 新規失業保険申請件数	1月 211k	214k
1月24日	00:00	欧 消費者信頼感	1月 -8.1	-7.8

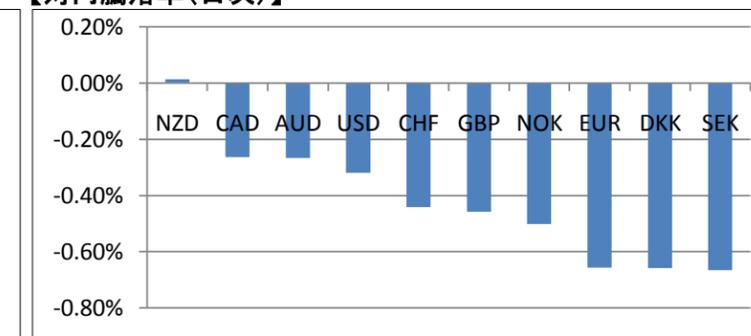
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月24日	08:30	日 CPI/コアCPI/コアコアCPI(前年比)	12月 0.7%/0.7%/0.9%	0.5%/0.5%/0.8%
	17:30	独 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	1月 44.5/53/50.5	43.7/52.9/50.2
	23:45	米 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	1月 52.4/53/-	52.4/52.8/52.7

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	ドル円は109.74レベルでオープン。春節を控えコロナウイルスの感染拡大を不安視する流れは継続。リスクオフモードの中、ドル円はじりじりと下げる展開。アジア株の急落につれ、109.53まで下落した。結局109.55レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、109.55レベルでオープン。新規材料は特になく、新型コロナウイルスの感染拡大懸念からドル円は上値重い展開。109.49-65で推移し109.61レベルでNYに渡った。ロンドンドルは、1.3123レベルでオープン。新規材料もなく比較的静かな値動きだった。1.3118-1.314646のレンジで取引され1.3124レベルでNYに渡った。(ロンドンドルフリー 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	コロナウイルス感染拡大懸念から海外市場のドル円は上値を重くし、一時109.49まで下落し、109.61レベルでNYオープン。朝方は、米新規失業保険申請件数が予想とほぼ一致したことから、ドル円の反応は限定的。軟調な株式市場の動きを受け、クロス円の売りが強まり、10時に発表された米12月先行指数も予想以上に悪化したこともあり、109.26まで下落する。午後はWHOがコロナウイルスについて緊急事態を宣言しなかったことから、過度な懸念が一旦後退し、株式市場が下げ幅を急速に縮小する動きに、ドル円は109.53まで戻す。しかし、感染拡大懸念がすべて払拭されたわけではなく、上値は重く、109.49レベルでクロスした。一方、ユーロドルは、ECB理事会結果発表を控え、海外市場で1.1078~1.1099での狭いレンジでの推移が続き、1.1085レベルでNYオープン。8時半に開始されたラウドECB総裁の記者会見でインフレ期待に上昇の兆しが見えることについて言及があり、一旦1.1109まで戻したものの、他の内容は特段効派でもト派でもなかったことが確認され、その後は軟調な株式市場の動きを受けたユーロ円の売りや、ドル買いに1.1036まで下落する。午後は前述のWHOのニュースを受けたユーロ円の買戻しにユーロドルも1.1059まで戻し、1.1058レベルでクロスした。(NY井上)

【マーケット・インプレッション】 ECB理事会の結果は

昨日のECB理事会は、予想通り政策に変更なし。主要政策金利を0.00%、中銀預金金利を▲0.50%で据え置くことを、目標インフレ率の2%近傍となるまで維持。加えて、資産購入プログラムは月額EUR20blnを利上げが行える環境が整うまでオープンエンドで継続するとの内容に変更はなかった。一方で、今後の政策の方針について広範な戦略検証が開始することが明らかになった。政策の検証は、1年かけて行い、インフレを測る代替手段や政策手段についても見直される予定だ。また、今回注目すべきは一般的な金融安定政策の他に、気候変動の問題等も議論になるとのこと。そもそも1月にECBの専務理事が2名、ドイツからイザベル・シュナーベル氏、そしてイタリアからファビオ・パネッタ氏が新たに就任。シュナーベル新理事はECBの公開市場操作を含む政策遂行の監督責任を負うことになる重要ポストだが、ドイツ出身ではあるもののECBのマイナス金利政策について、副作用があることは認めつつも擁護するスタンスを明確にしている。よって、今回の専務理事交代により、ECB理事会での政策議論はより前進的になるだろう。結果的に、今回の理事会では目新しい材料となるものはなく、相場の方向性を決定付けるものにはならなかったものの、戦略の検証中においても金融政策は不変ではないことから、新体制となったECBの動きには注目だろう。(原田)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 原田・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル	ペア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル

ブル	ペア
14	6